

地域とゆとり教育

北伊予小学校PTA会長 野村雅章

本年4月より、公立の小・中学校などで毎週土曜日が休みになる完全学校週五日制が始まりました。これは、子どもたちにゆとりを与え家庭や地域に返すことにより、家族の絆を深めたり、様々な活動や体験を通じて「生きる力」を育てようとするものです。



私たちの地域では、これまでも公民館や老人会などのご協力をいただいて、芋掘りや玉ねぎ植えといった農業体験や、しめ縄づくり、もちつきなどの地域の特色をいかした体験活動を子どもたちのために実施していただいております。こういった活動は、社会体験、生活体験の乏しい今の子どもたちにとって、学校の教室では学ぶことのできない貴重な経験で、子どもたちは皆いきいきとした表情をみせながら学んでいます。

さらに、公民館を中心としたしゃぼん玉や折り紙体験の他に、昨年は地域の方々にこま回しやおてだまなどの昔懐かしい遊びを教えていただく機会もありました。こうした世代を越えた触れ合いの場は、少子化、核家族化が進展する社会の中では、今後一層大切になるでしょう。



また、子どもたちの社会体験における受け皿は、なにも子どもたちを対象とした体験の場に限ったものではないはずです。私たちの地域では、季節ごとに運動会や夏祭りといった地域行事がそれぞれの地区で行われています。こういったものに積極的に参加させることも必要ですし、また地域や家庭生活の中で、これまでより多く手伝いをさせてみたり、奉仕活動に汗を流したりすることも大切でしょう。

戦後、子どもから三つの「間」が失われたと言われています。時間、空間、仲間のことだそうですね。この機会に、家庭と地域社会が連携しながら、子どもたちの増えたゆとりの時間をこれらの「間」を取り戻すきっかけにできればよいと願っております。

心の花を咲かせたい

松前小学校教諭 白石和美

花は無心に咲いています。どんな環境の中でもひたむきに花を咲かせて命を輝かせます。名もなき小さな花も高価な大輪の花も、白い花は白く赤い花は赤く、それぞれに心を動かされるすばらしさがあります。

人間も花と同じだと思うことがあります。一人ひとりにすばらしさがあり、弱い部分もあります。それらすべてをまとめて一人の人間であり、みんなひたむきに生きているのです。人権を大切にすること、ひたむきさや弱さを知り、まると受けとめていくことだと思います。

今回、人権啓発劇を発表する機会をいただいたので、劇を創り上げる中で、ひたむきに生きている友達のすばらしさや友達と支え合うことの喜びを味わわせ、人権を守ろうとする態度を育てたいと考えました。

まず脚本作りでは、日ごろの生活を振り返らせました。

遊びに入れてもらえなくてつらかったことや兄弟で比べられていやなこと。逆に友達を差別してしまったことなど児童の思いや言葉を生かしました。

次に役者、美術係、音楽係、記録係などの役割を決めました。みんなの前で演じるのは苦手だけど挑戦してみたい。ほか音楽をかけて劇を盛り上げたい。友達のがんばっている姿をビデオや写真で残したいなど児童一人ひとりが自分の役割を見つけて取り組みました。練習する中で感じたこと、自分の成長などは心の花日記として書かせました。

文化センターの大きな舞台上で演じ終えたときの児童の顔は、思いを伝えることができたと喜びで輝いていました。自信や協力や感動の花が咲いた瞬間でした。

この活動を通して芽生えた花を、大切に育てていってほしいと願っています。五年四組の心の花日記は、これからも続いていきます。